

“ゆで豆用” 落花生新品種

「おおまさり」の作り方



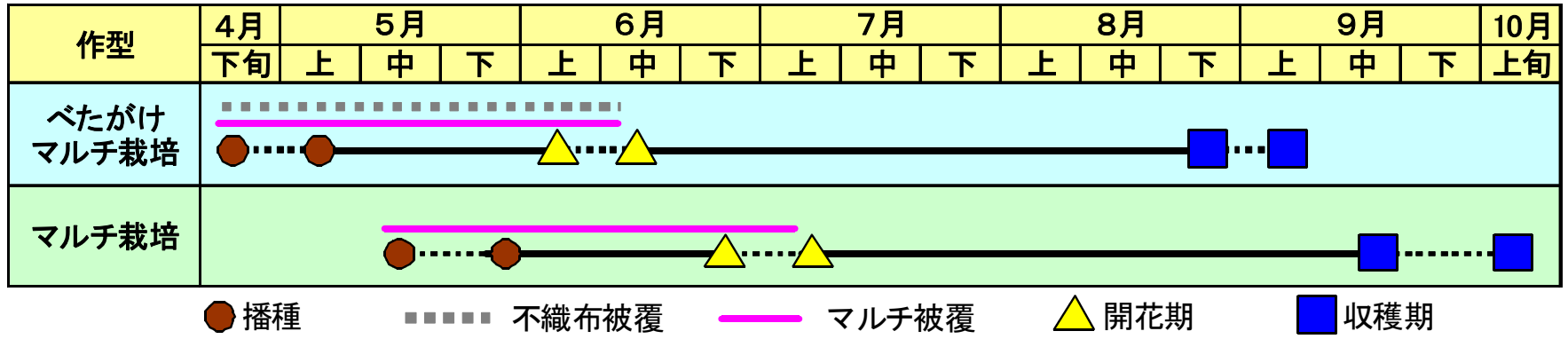
おおまさり 郷の香

「おおまさり」の特徴

- ゆで豆用の奨励品種「郷の香」に比べて
- ◆大株になる
- ◆莢と子実は、極めて大きい
- ◆ゆで莢の収量は、1.3倍程度と多い
- ◆ゆで豆は、軟らかく、甘味が強い
- ◆収穫適期は、15日程度遅い

目標収量(ゆで莢) 750~850kg/10a

栽培暦



1 栽培圃場

- ◆根域が広いので、作土の深い肥沃な圃場が向く。
- ◆白絹病や茎腐病の発生圃場では、作付けを控える。

2 施肥(基肥)

- ◆前作に堆肥を施用し、保水力や地力を高める。
- ◆基肥の窒素施用量は、従来品種と同様に、3kg/10a程度とする。
- ◆野菜跡地などの残存窒素量の多い圃場では、過繁茂になりやすいため、施用量を減らす。

資材	施用量	成分		
		窒素	りん酸	加里
落花生専用化成 (5-15-20)	60	3.0	9.0	12.0
苦土石灰	60			
合計		3.0	9.0	12.0

3 播種

- ◆ゆで豆用として1日に収穫・加工できる量を考慮して、播種計画を立てる。
- ◆栽植密度は、従来品種と同様に、5,100株/10a程度とする(平均畦間65cm、株間30cm)。
- ◆出芽の安定や増収を図るため、**2粒播き**(1株2本立て)とする。
- ◆4月下旬~5月上旬播きでは、出芽や初期生育を揃えるため、マルチ上に不織布(パスライトなど)をべたがけする。
- ◆生育が旺盛で、マルチ除去時に株が傷みやすいため、穴の大きいマルチか生分解性マルチを使用する。

4 資材(不織布、マルチ)の除去

- ◆資材の除去は、花が咲いたら、速やかに行う。
- ◆生育が旺盛なため、適期をのがすとマルチの除去が困難となる。
- ◆資材除去後の培土は、茎葉が埋まらないように軽めとする。

5 かん水、病害防除

- ◆夏季の乾燥時には、空莢の防止や莢実の生育を促すため、十分かん水する(1回当たり30~40mm程度)。
- ◆褐斑病や黒渋病が発生したら、薬剤を散布する。

6 収穫(ゆで豆用)

- ◆収穫適期は、開花期後85日頃である。(開花期:開花した株が圃場全体の半分程度になった日)
- ◆収穫前に数株試し掘りをして、収穫時期を判断する。
- 下図赤枠の莢が、**1株当たり20個以上**確認できたら収穫適期となる。
- ※莢数の目安は、「1株2本立て」の場合

- 網目が発達
- 莢がへこむ・小さい(網目は発達)
- 網目が未発達
- 子実が充実
- 子実の生育不良
- 子実が未熟

◆収穫後は、品質が劣化しないように、速やかに加工する。

7 種子の更新

- ◆品種の特性を維持するために、定期的に種子を更新する。
- ★自家増殖した「おおまさり」の種子を他人に譲渡(有償・無償を問わず)することは、「種苗法」により禁止されている。

出願品種名: おおまさり
出願番号: 第21228号
出願者: 千葉県